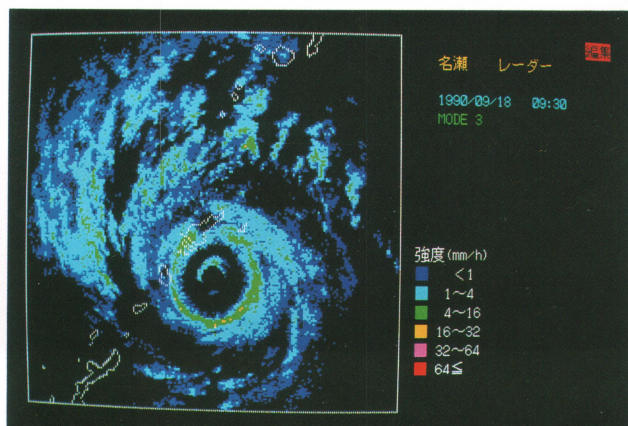
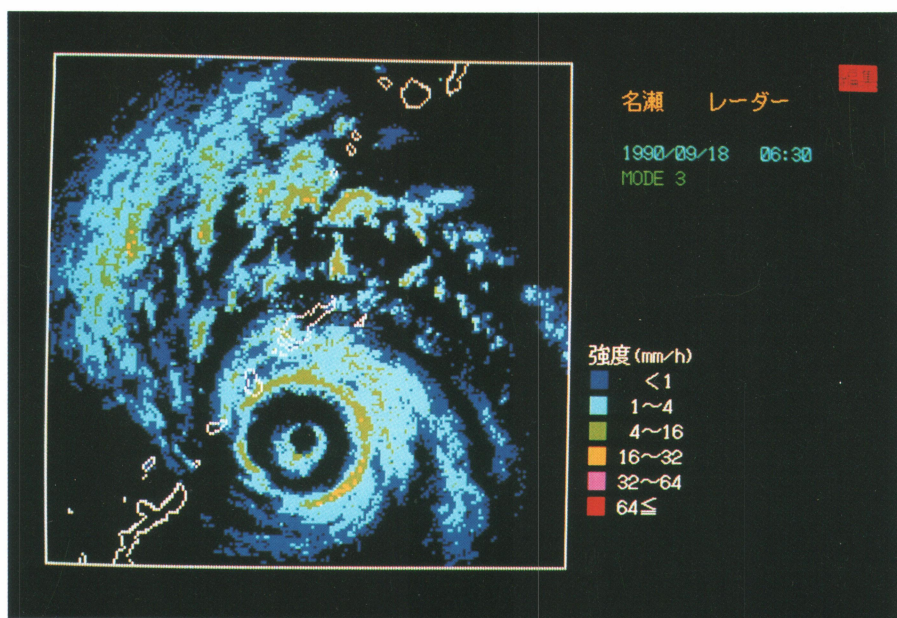
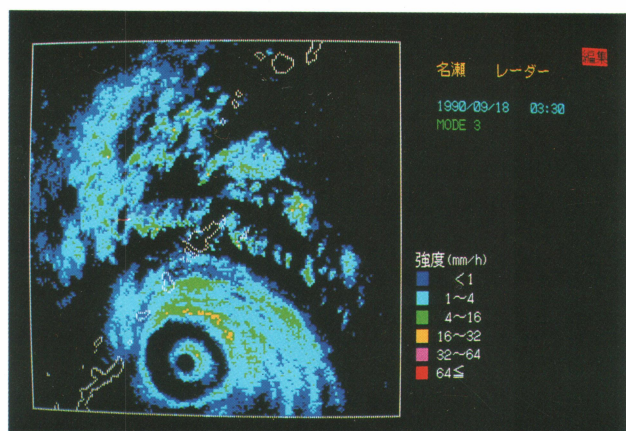




(写真提供：神林慶子氏)

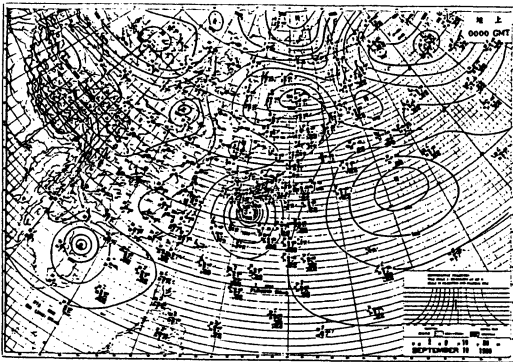
名瀬レーダーが捉えた台風19号*

神林 慶子**

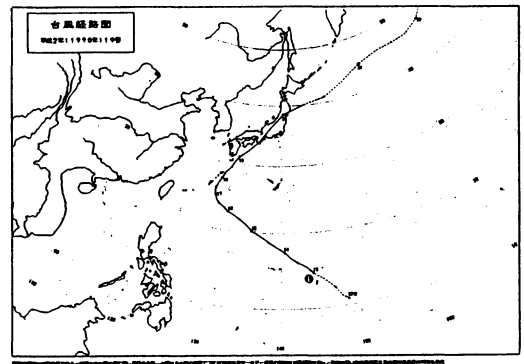
名瀬レーダーが捉えた台風19号の監視用画像である。画像では、台風の特徴的な外側降雨帯、目などのエコーが、はっきりと捉えられている。1990年9月12日に発生した熱帯低気圧は13日09時にグアム島付近で台風となり、発達を続けながら北上し、沖縄付近にあった17日09時から15時までは、中心気圧890mb、中心付近の最大風速は60m/sと大型で猛烈な台風となった。台風は、沖縄本島

の東海上で北東に向きを変え、奄美大島の東海上を通過して19日20時過ぎに紀伊半島に上陸、本州を縦断して20日15時に三陸沖で温帯低気圧となった。この台風による被害は、死者13名、負傷者45名であった。

名瀬レーダーは、平成2年4月にデジタル化業務を開始しており、この画像は、周辺の気象官署にリアルタイムで伝送され、予報、解説業務に有効に利用された。



1990年9月19日09時地上天気図



台風19号 経路図

* Typhoon 9019 FLO observed by Naze weather radar, 0630JST Sep. 18 1990.

** Nobuko Kanbayashi, 気象庁観測部測候課.